

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	こども部	
関係部	保健福祉部	-
	-	-

基本施策	I-1 健康・福祉サービスを強化する
個別施策	② 子育て環境の整備
個別施策の方向	子どもは社会の希望であり未来の力であるという認識のもと、子どもを安心して生み、育てることができる環境を整備するなど、子どもの成長に合わせた継続的な支援により、子どもが健やかに育つことができる地域社会づくりを進める。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)											
H27年度	決算	事業費	801,290	人件費	73,013	事業コスト	874,303				
	事業費内訳	国庫支出金	17,138	県支出金	307,111	地方債	0	その他特財	77,856	一般財源	399,185
H28年度	決算	事業費	1,216,017	人件費	71,819	事業コスト	1,287,836				
	事業費内訳	国庫支出金	639,090	県支出金	187,864	地方債	57,600	その他特財	119,032	一般財源	534,863
H29年度	決算	事業費	2,365,645	人件費	90,897	事業コスト	2,456,542				
	事業費内訳	国庫支出金	1,375,149	県支出金	178,485	地方債	50,800	その他特財	88,860	一般財源	672,351

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	43.8%	44.7%	0.9%
2) 子育て環境			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
提言	<p>つくば市バースセンターのさらなる認知度アップ、母子健康診査における保健指導の質の向上、子ども・子育て支援新制度施行に伴う放課後児童クラブ対象学年の拡大等課題があるが、課題解消に向けさらなる事業推進を図られたい。また、子育てについても地域コミュニティを活用するなどの検討も必要と考える。</p> <p>待機児童0を目指して保育園のさらなる整備を目指していただきたい。</p>	

取組概要	<p>バースセンターの周知は、市報掲載や母子手帳交付時にチラシを配布した。母子健康診査時の保健指導については、育てにくさに注目した問診項目を追加し、それに対する指導を実施したり、スタッフ全員で指導内容の研修を行いレベルアップを図った。子育て交流センターや地域子育て支援拠点において、地域における子育て親子の交流等の事業を実施した。</p> <p>保育所の待機児童対策は、民間の保育園や認定こども園などの新設整備による受入れ枠の拡大を図った。放課後児童クラブの受入れは、公営児童クラブの建設、学校の余裕教室の活用、民間児童クラブの新規開設により拡充を図った。</p>
成果	<p>バースセンターの認知度が向上し、分娩件数は目標値におおよそ達成した。母子健診は問診項目を見直したことにより、子育ての様子が良く把握でき、適切な支援が実施できたため育児に対する不安の解消ができた。子育て親子の交流は、年々利用者が増加し子育てに対する不安感を緩和することができた。</p> <p>保育所については、3年間で民間保育園、認定こども園の新設10か所、小規模保育事業の新設4か所、また既存保育所の定員増など、合計907人の受入れ枠を拡充できた。児童クラブについては、3年間で公設、民営合計でクラブ数で32、受入児童数で1,195名の拡充できた。</p>
今後の課題	<p>バースセンターについては、今後も転入者が多いと予想され、新たに市民となる方々に常時広報周知を続ける必要がある。母子健診は、児の発達及び子育て状況を正確に把握し、個々に応じた支援ができるように問診のさらなる工夫が必要である。</p> <p>保育所の待機児童については、計画的に施設整備等を行っているが、特にTX沿線の転入者の増加により解消に至っていない。児童クラブについても、まだ待機児童が発生しており、また児童1人当たりの専用面積が十分に確保できていないため、更なる拡充が必要である。</p>
改善目標	<p>バースセンターについては、引き続き広報媒体を模索しながら、広く住民への周知を図っていく。母子健診は、児の発達及び子育て状況の把握に向け、問診の工夫、指導の向上を図っていく。</p> <p>保育所待機児童の多い地区に、民間保育園の施設整備を推進し、ニーズの高い事業等を定期的に見直していく。児童クラブについては、課題解消のため引き続き公営児童クラブの増設、民間児童クラブ開設推進を図っていく。</p>

自己評価（所管部署評価）	
自己評価記述	<p>バースセンターについては、現在目標値をほぼ達成しているが、引き続き広く住民に周知を図る。母子健診は、問診票の改善や職員の研修の実施などで、保健指導の質は向上しているが、常にさらに良い指導法を考えていくようにする。</p> <p>保育所待機児童、児童クラブ待機児童については、TX沿線地区で増え続ける需要に応えるべく早期の解消をできるよう有効な事業を推進していく必要性が大きい。</p> <p>未来を担う子どもたちを安心して育てることができるようにするために、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない施策を展開することは必須と考えるので、今後も更なる充実を追究していく必要がある。</p>